

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 公益財団法人 神戸国際協力交流センター

1 事業の趣旨・目的

神戸市には約44,000人(平成23年4月現在)の外国人が居住しているが、近年、中でも中国人をはじめとする外国人留学生や、いわゆるニューカマーと呼ばれる外国人が増加している。また、市内の外資系企業数や、国際学校の生徒数も増加の傾向にあり、地域国際化の進行が著しい。

そのような中、日本語学習支援の要請も益々高まっており、当センターにおいても、1000名を超える日本人ボランティアが登録し、外国人市民に対し、日本語や、書道・華道を教えるボランティア活動を行っている。また、市内に10箇所以上ある日本語教室や、多くの民間団体等においても、活発な日本語学習支援活動が行われている。

こうした状況のもと、前年度からの継続事業として、ボランティア、日本語支援活動を2年以上行っているボランティアを対象として「神戸で活動する日本語ボランティア実践講座」を実施することにより、今後、受講生のより質の高い活動を確保し、地域の国際化に寄することを目的とする。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月16日	当センター会議室	澤田幸子 矢谷久美子 後藤ひろ子	・講座の概要について事務局より説明 ・内容についての意見交換	・昨年度開催した実践講座の反省をふまえ、カリキュラム等を検討
7月11日	当センター会議室	澤田幸子 矢谷久美子 後藤ひろ子	・講座のカリキュラムについて意見交換 ・担当講師、内容を決定。	・計8回の実習日を決定 ・担当講師、補助講師を決定 ・受講生募集方法・時期について検討 ・学習補助者、外国人学習補助者の役割、使用

				するテキストについて検討
2月14日	当センター会議室	澤田幸子 矢谷久美子 後藤ひろ子	・講座の評価について ・事業の成果について ・今後の改善点	受講者アンケート結果を踏まえながら、研修の成果について意見交換を行った。

【写真】



3 講座の内容について

(1) 講座名 「ボランティアを対象とした実践的研修」

(2) 目標

神戸で活動する日本語学習支援者の日本語学習支援活動の技能を向上させるとともに、日本語学習支援活動を通して、地域の国際化に寄与する。

(3) 受講者の総数 30人 (内2名が途中終了)

(出身・国籍別内訳 日本 30人)

開催時間数(回数) 40時間 (20回)

講義 24時間 (12回) 実習 16時間 (8回)

(4) 参加対象者の要件

- ① 神戸市内でボランティアとして、日本語支援活動を2年程度又はそれ以上行っている方
- ② 全20回とも出席できる方
- ③ 受講生のみなさんと共に作り上げていく講座なので、講座当日の設営、準備、片付け等を手伝っていただける方
- ④ 今後、本講座で学んだことを生かして、日本語学習支援活動を行っていく方

(5) 受講者の募集方法

- ① 募集チラシを作成し、センター内に掲示のほか、当センターのホームページに掲載
- ② 2006年から2009年に登録された活動回数2回以上のKICC日本語ボランティアで、現在も活動を希望している方に案内チラシを送付した(別途募集チラシ添付)
- ③ 神戸市内の日本語ボランティア教室へチラシ送付し、広く募集を行った。

(7) 会場

ア 講義： 当センター会議室

イ 実習： 当センター会議室

(8) 使用した教材・リソース

教材名：

- ・「にほんごボランティア手帖」 凡人社
- ・「にほんご宝船 いっしょにつくる活動集」 アスク
- ・「にほんご宝船 教える人のための知恵袋」 アスク
- ・「日本語おしゃべりのたね」 スリーエーネットワーク
- ・「日本語おしゃべりのたね 第2版」 スリーエーネットワーク
- ・「にほんごこれだけ！1」 ココ出版
- ・「新刊 にほんごこれだけ！2」 ココ出版
- ・「みんなの日本語初級Ⅱ」 スリーエーネットワーク
- ・「日本語教師必携 すぐ使える『レアリア・生教材アイデア帖』」スリーエーネットワーク
- ・「みんなの日本語初級Ⅱ 練習C・会話イラストシート」 スリーエーネットワーク
- ・「NAFL 選書 日本語表現文型」 アルク
- ・「中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック」 スリーエーネットワーク
- ・「どんな時どう使う 日本語表現文型 500」 アルク
- ・「中級日本語文法 要点整理 ポイント20」 スリーエーネットワーク
- ・「みんなの日本語中級Ⅰ」 スリーエーネットワーク
- ・「会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレー」 スリーエーネットワーク
- ・「中上級のにほんご」12号 創作集団にほんご
- ・「日本語を楽しく読む本 初中級」 産能短期大学国際交流センター
- ・「ニューアプローチ中上級日本語」 語文研究社
- ・「中級へ行こう」 スリーエーネットワーク
- ・『ALCOM WORLD 2011 January』より トニー・ラズロ「マルチリンガル道場」
- ・「神戸を楽しもう」 (公財)神戸国際協力交流センター 等

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
9月6日 14:00～16:00	講座の目的、全体の流れ、自己紹介等	(財)海外技術者研修協会 (AOTS) 澤田 幸子	29人
9月13日 14:00～16:00	多文化共生と異文化理解、日本語支援の意味	(財)海外技術者研修協会 (AOTS) 澤田 幸子	29人
9月20日 14:00～16:00	対話中心の活動とはどのような活動か	(財)海外技術者研修協会 (AOTS) 澤田 幸子	26人
9月27日 14:00～16:00	<実習①>「やさしい日本語」とは？	(財)海外技術者研修協会 (AOTS) 矢谷 久美子	27人
10月4日 14:00～16:00	<実習②>初めての学習者との話し、最初の人間関係を作る	(財)海外技術者研修協会 (AOTS) 矢谷 久美子	29人
10月11日 14:00～16:00	実習②のフィードバック:対話型活動の活動案作り	(財)海外技術者研修協会 (AOTS) 矢谷 久美子	27人
10月18日 14:00～16:00	<実習③>活動と振り返り	KICC 日本語ボランティア 日本語講師 後藤 ひろ子	29人
10月25日 14:00～16:00	実習③のフィードバック:問題点の改善と活動案作り	KICC 日本語ボランティア 日本語講師 後藤 ひろ子	27人
11月1日 14:00～16:00	<実習④>活動と振り返り	(財)海外技術者研修協会 (AOTS) 澤田 幸子	28人
11月8日 14:00～16:00	実習④のフィードバック:対話型活動についての意見交換(レポート課題)	(財)海外技術者研修協会 (AOTS) 澤田 幸子	27人
11月15日 14:00～16:00	地域日本語教室にあった初級テキストの使い方、活用法	(財)海外技術者研修協会 (AOTS) 澤田 幸子	27人

11 月 22 日 14:00～16:00	<実習⑤> 講師による活動デモンストレーション	(財)海外技術者研修協会 (AOTS) 矢谷 久美子	28 人
11 月 29 日 14:00～16:00	コミュニケーション能力とは何か	KICC 日本語ボランティア 日本語講師 澤田 幸子	26 人
12 月 6 日 14:00～16:00	<実習⑥> 学習者の話す日本語を観察する	KICC 日本語ボランティア 日本語講師 後藤 ひろ子	27 人
12 月 13 日 14:00～16:00	実習⑥のフィードバック: 会話教材を使った活動案作り	KICC 日本語ボランティア 日本語講師 後藤 ひろ子	27 人
12 月 20 日 14:00～16:00	<実習⑦> 活動と振り返り	(財)海外技術者研修協会 (AOTS) 矢谷 久美子	27 人
12 月 27 日 14:00～16:00	実習⑦のフィードバック: 問題点の改善と活動案作り	(財)海外技術者研修協会 (AOTS) 矢谷 久美子	23 人
1 月 10 日 14:00～16:00	<実習⑧> 活動と振り返り(第 10 回課題提出)	KICC 日本語ボランティア 日本語講師 後藤 ひろ子	26 人
1 月 17 日 14:00～16:00	辞書(翻訳)では解決しない言葉の使い分けを考える	(財)海外技術者研修協会 (AOTS) 矢谷 久美子	25 人
1 月 24 日 14:00～16:00	講座のまとめと質疑応答	(財)海外技術者研修協会 (AOTS) 矢谷 久美子 KICC 日本語ボランティア 日本語講師 後藤 ひろ子	25 人

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

- ・対話型活動の大切さがよく分かった。実習の事前準備が大変だったが、学習者との楽しくできて良かった。
- ・他の方々の実習が見られて、第三者的にボランティアの活動が観察できた。
プロの先生方の実習を見られ、そこから次の課題を発見していける話を聞くことができたこと。
- ・先生の講義は役立つことばかりだった。
- ・一度学習者の方々と相手に公開授業を拝見できたことも、とても有意義だった。
教案を書き馴れていない人もいるので、一度モデルを示してもらえたら作業がスムーズに進んだかなと思った。
- ・普段他のボランティアの人たちと接する機会がないので、教え方のこと、教材、困ったこと、嬉しかったことが自分と同じだったり、違っていたり、たくさん知ることができて良かった。
- ・ボランティアは日本語を「教える」という「使命」だと頑張らないといけないいつも思っていたが、「日本語で相手を知り、関わる」というのは、そんな肩の力を少しゆるめてくれた気がする。
- ・相手の希望に添えるように教えてもらったテキストを活用したり、こちらも提案を学習者にしていきたい。
- ・日本語ボランティアをされている方々に出会えて、いろんな話が聞けたのが良かった。
- ・ボランティアの在り方について、もう一度考えようと思った。自己開示や学習者に話をさせるなど基本的な事を忘れずにボランティア活動に今後活かせたらいいと思う。
- ・「日本語が話せない人と話す」のではなく、「日本語を使って人と話す」という意識をもっと強く持たなければならないことを改めて感じた。
- ・つらい時期もあったが、日本語の良さ、教えることの難しさを考えるきっかけになった。
- ・学習支援に対する考え方、取り組み方を一から考え直そうと思った。「話すことによって言語習得が進む」ということを念頭に授業案をつくっていこうと思う。
- ・今まで“日本語を教える”といえば、文法や文型を積み上げる練習に意識がいていたが、この講座で「対話型」という新しい視点を与えてもらった。
- ・今回学んだことはすぐに使えることが多く、既に試している。一人よがりにならないためにも、こういう機会が必要だと思う。
- ・模擬演習も多く、講義内容も基本的でよく理解できた。
- ・色々な教材を教えてもらったので、今後参考にしたいと思った。
- ・自己開示の意味を自覚することができた。

- ・他のボランティアの悩みを知れた。
- ・楽しく、ボランティアの道を深めていこうというモチベーションを強くすることができた。
- ・グループで実習計画をたてるには無理がある。結局本人に任せるしかないので、当日になって思っていたのと違うものだったりした。
- ・毎週火曜日 2 時間を 4 か月続けるのは、想像以上にボリュームがあり、大変でもあった。回数がもう少し少ない方が自分には適している。
- ・授業の目的と組み立て方を学んでから、学習者との実習にのぞめることができて勉強になった。
- ・実習では、プランにとる時間が長かったので、もう少し短くして先生の実践講座を増やしてほしい。
- ・定住者を対象とするか、数年程度の滞在者を対象とするのかによって、学習方法はかわってくると思うので、これについての情報があつたらと思う。
- ・学習者に毎回来てもらってもいいと思った。
- ・実践重視の講座ゆえ、知識ではなく、体験によって学ぶ事が多かったと思う。
- ・今までの自分の支援を振り返ることができた。初級と中上級とに分けての構成は良かったと思う。
- ・グループワークを行うことで、他のボランティアの方と仲良くなれた。情報交換もできた。テキストを離れたレッスンで刺激的だった。講義だけでなく、実際に生徒さんを用意して頂けたのがよかった。

② 実施主体からの研修内容結果評価

- ・アンケートの結果からは、昨年度よりも講師の意図したことが伝わったのではないかな。横のつながりを大切にする姿勢、文法にこだわるよりも考え方を変えていこうという姿勢を受講者にもってもらえたのではないかな。
- ・今回は初めての試みとして、受講者に毎回受講記録を記入してもらい、それを受講途中のボランティア活動で実践するといった方法をとったが、実習で気づいた点を次の講義の時間にフィードバックして自身の実習を客観的に振り返ることができ、次回以降の実習に活かせたので、相当効果があつたと思われる。
- ・今回で実践講座開催は 3 度目になり、今までの講座と比べ、講座内容、講師自身もレベルアップすることができた。
- ・講座を通して、受講者は様々な教材があることが分かり、今後のボランティア活動に対する意識も変わったようである。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・受講者中心にボランティア同士のネットワークを広げ、勉強会をする場として

側面的に支援する。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

受講者が日本語ボランティアにより積極的に参加し、講座で学んだことを実際のボランティア活動を通して実践していくことで、当センターの日本語ボランティアを始めとする神戸市内の地域のボランティア活動に寄与することができた。

② 研修後の人材活用

受講者がKICC以外に、地域のコミュニティーなどのボランティア活動に参加することで、神戸を外国人にとって、より住みやすい街にしていくことに貢献してもらう。(地域の国際化への貢献)

(12) 今後の課題

ボランティア経験が2年以上の方を対象にした実践講座は今回で3度目になり、KICCに登録しているボランティアの中では、ほぼニーズを満たしている。
今後は対象者、テーマを変えた講座を検討してはどうか。